ニュースレター「がんばる農林漁業者」第５号

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動推進本部

平成２７年１１月６日発行

このニュースレターは、「ふくしまから　はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の「生産再生運動」の一環として発行しています。福島県の農林水産業の復興・再生に向けて先進的な取組をされている方々を紹介していきます。

赤石澤忠則さんは、２５歳の時に地元飯舘村（飯樋地区）で就農し、被災前は水稲２４ｈａ（作業受託含む）、トルコギキョウ３３ａ、原木椎茸６０００本（冬場）の複合経営に取り組んでいました。トルコギキョウは、就農後９年目に取り組み始めた品目で、今年で２０年目になります。

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響によって、営農を停止せざるを得ない状況となりました。

しかし、「もう一度トルコギキョウを栽培したい、そして、自分が今まで培った栽培技術を守りたい。」という強い思いから、営農を再開することを決心しました。

平成２４年に、飯舘村の気象条件に比較的近い福島市荒井地区に農地を借り、福島県被災地域農業復興総合支援事業により、飯舘村が同地区に整備したパイプハウスを借り受け、平成２５年からトルコギキョウの栽培を再開しました。

営農を再開したものの、標高４００～６００ｍの飯舘村とは気象条件や土壌条件が異なり、福島市荒井地区に合った栽培体系を確立するまでには、まさに試行錯誤の連続でした。

関係機関の協力を得ながら、土壌分析に基づく土作りや栽培技術の向上に取り組み、トルコギキョウの栽培を再開してから３年目にして、市場から高い評価を得るまでになりました。

また、平成２５年春から緊急雇用事業等を活用し、飯舘村から会津に避難していた若い農業者を雇用し、人材育成にも力を注いでいます。

赤石澤さんご夫妻は、「お客様が花を手に取ったとき、飯舘村の情景を思い浮かべていただけるような、飯舘村に思いを馳せてもらえるような、そんなトルコギキョウを栽培していきたいです。」と飯舘村復興に向けて熱い思いを語ってくれました。

取材日：
平成27年7月17日（金）
取材者：
県北農林事務所　丹治

法人化による経営基盤の安定化と雇用を通じた地域経済への貢献

(株)RISESAPEUR 代表取締役　目黒（めぐろ） 大輔（たいすけ）さん

（只見町）

☆水稲、南郷トマト

（株）ＲＩＳＥＳＡＰＥＵＲ 代表取締役の目黒大輔さんは、２３歳の時にＵターンで地元に戻って就農し、今年で９年目を迎える若き農業者です。

現在、町内耕作放棄地等の借り受けによる、農地集積型大規模水稲と南郷トマトの栽培に多忙な日々を過ごしています。

目黒さんは、担い手の高齢化等により耕作放棄地が増加している現実に直面し、耕作放棄地解消による農業再生を目指して就農当初から率先して農地の借り受けを進めており、現在ではコシヒカリやひとめぼれを中心に、１５ｈａの水稲と、５０ａの南郷トマトを栽培するまでになりました。

また、従業員の意欲と生産能力を高めるため、今年４月に（株）ＲＩＳＥＳＡＰＥＵＲを設立し、雇用の創出と維持拡大を通じて地域経済の活性化に多大な貢献を果たしています。

目黒さんは「多くの仲間とのつながりを創り、協働で新たな物事に取り組むことが大好きです。最新の農業・ＩＣＴ技術は勉強中ですが、みんなで頑張って成果を分かち合える仲間を１人でも多く増やしていきたいです。」と語ってくれました。

９月には１，０００人の参加者を募った手刈り体験イベントを開催するなど、農業者の枠を超えて日々新たなチャレンジを行っています。みなさんもぜひ只見町に来て、美味しい農産物を味わいながら、目黒さんの魅力に接してみてはいかがでしょうか。

取材日：
平成 27 年 7 月 29 日（水）
取材者：
南会津農林事務所
十文字、齋藤

取材にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

がんばる農林漁業者は、「ふくしまから はじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」のホームページでも紹介しています。
http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fff-syoku-furusato/
食とふるさと　検 索

ふくしまから はじめよう。
Future From Fukushima.